

こども家庭科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
（総括・分担）研究報告書

基礎疾患を持つ方に対するプレコンセプションケアの情報提供の充実のための研究（23DA0201）

研究代表者	荒田尚子	国立成育医療研究センター 女性総合診療センター 女性内科 診療部長
研究分担者	杉山 隆	愛媛大学・大学院医学系研究科 産科婦人科学・教授
研究分担者	大田えりか	聖路加国際大学 大学院看護学研究科・教授
研究分担者	秋山美紀	慶應義塾大学 環境情報学部・教授
研究分担者	小林佐紀子	東京医療センター 腎臓・内分泌・代謝内科・医長
研究分担者	三戸麻子	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 女性総合診療センター 女性内科
研究分担者	長村杏奈	昭和大学 医学部内科学講座糖尿病代謝内分泌内科学部門・兼任講師
研究分担者	三浦瑤子	昭和大学 医学部内科学講座リウマチ・膠原病内科学部門・助教

研究要旨

本研究の初年度に行われた文献レビューによる科学的なエビデンスの確認、内科各学会の専門家（医療者）と当事者に行われたアンケート調査、患者自身へのフォーカスグループインタビュー調査によって得られた臨床現場の課題とニーズをもとに、医療者および当事者用が使用する資料として、①プレコンセプションケア医療者用マニュアル、②疾患別リーフレット「プレコンノート 疾患編」（4疾患）、③プレコンセプションケア啓発用チラシ「プレコンカード」の作成をおこなった。

内科系専門学会での調査の結果、①診療科を問わず医療機関で配布できる女性の性と生殖に関する基本的な情報やプレコンセプションケアに関する情報提供、②医療者に対するプレコンセプションケア教育、③医療者が知るべき、思春期/若年成人の女性の将来の妊娠・出産に関する知識のまとめ、④短い診療時間の中で医療者・当事者ともに過不足なく必要な知識を得て活用するためのチェックリストについて、補完する資料となった。しかし、今回は内科4疾患のみで、その他の重要な疾患についての資料の作成、医療者が科学的エビデンスをアップデートできる方法の創出、当事者に十分なケアが行き届くための医療システムの構築などについては今後の課題として残された。

研究協力者

安田麻里絵	国立成育医療研究センター 女性総合診療センター 女性内科（事務局）
柳澤慶香	聖マリアンナ医科大学 代謝・内分泌内科
和栗雅子	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター母性内科
吉原 愛	伊藤病院 内科
久門真子	隈病院 内科
目時弘仁	東北医科薬科大学 医学部 衛生学・公衆衛生学教室
深水亜子	久留米大学医学部 内科学講座 心臓・血管内科部門
平松ゆり	大阪医科薬科大学 リウマチ膠原病内科
宮原富士子	女性の健康支援NPO法人 Healthy Aging Projects for Women(HAP)
三小田亜希子	国立成育医療研究センター女性の健康総合センタープレコンセプションケアセンター
飯村 祐子	国立成育医療研究センター女性総合診療センター女性内科
佐藤 志織	国立成育医療研究センター女性総合診療センター女性内科
川崎 麻紀	国立成育医療研究センター女性総合診療センター女性内科
細田 愛子	国立成育医療研究センター女性総合診療センター女性内科

A. 研究目的

プレコンセプションケアは妊娠・出産を含めた将来のライフプランを考慮しながらのヘルスケアといえる。女性の晩婚化や生殖医療技術の向上などに伴う出産年齢の高齢化によって、生活習慣病

や慢性疾患をもった女性の妊娠が増加し、ハイリスク妊娠が増加している。高血圧は、性成熟期女性が罹患している内科疾患の上位にあり、これらの女性に対し遅滞なく包括的プレコンセプションケアを提供する体制を整える必要がある。初年度

の研究で、我々は女性の診療や、その妊娠・出産を診療する内科専門家（医療者）からアンケート調査を、内科疾患を抱える女性（当事者）に対しフォーカスグループインタビューを行った。その結果、高血圧の女性の妊娠・出産に関連する臨床現場のニーズと課題が明らかとした。その結果をもとに、それらの解決につながる資材の作成を今年度の目的とした。

B. 研究方法

初年度の研究結果から、プレコンセプションケアの情報提供における臨床現場での課題・ニーズとして以下が挙げられた。

■プレコンセプションケア全体に関すること

課題1. 性と生殖に関する基本的な情報提供は、ほとんどの医療現場で行われていなかったが、その必要性は多くの医師が感じていた。「女性の性と生殖・妊娠に関する基本的な情報提供」が医療現場でも必要だと考えられた。

課題2. 適切な避妊法についても半分以上の専門家が説明を行っておらず、適切な知識の提供が必要と考えられた。

課題3. 妊娠前女性と専門家の間で、将来の妊娠・出産の希望についての確認は、「特に確認していない」・「生殖機能に影響のある事象の発生や治療の開始時に一度のみ」という回答が多かった。一方で、当事者は妊娠前に主治医と妊娠後について話しあうことが適切だと感じていた。将来の妊娠・出産の希望について、専門家側からの話題提供が適切に出来ていない可能性がある。

課題4. 対象者は疾患をもちながらの妊娠が母児にとってハイリスクであること、また正確な情報をどこから得られるのか等、大きな不安を抱えていた。それに対し専門家から妊娠経過や薬の使い方、母児リスクへの対応など、適切なタイミングで説明をうけることで安心感を得られていた。その反面、適切な知識を提供すべき専門家の知識は均一ではなく、医療者によって差があることが推測された。

課題5. 基礎疾患を持つ女性や、妊娠高血圧症候群を発症した女性は、次の妊娠・出産や健康に対するリスク回避のために産後も厳格な内服管理や定期的な通院が必要となる場合がある。しかし忙しい育児中で定期的に血圧測定する困難さや薬を内服することを忘れてしまうという意見が多く、当事者に対する効果的な健康管理の提供が課題と考えられる。

■診療現場に関すること

課題6. 医療者は短い診療時間の中で、過不足なく対象者に必要事項を伝えることに困難を感じていた。また、医学的なエビデンスに基づいた情報のアップデートにも不安を感じていた。医療者が効率的に最新の知見を対象者と共有できる方法が求められていると考えられる。

課題7. 学会アンケートの回答率はいずれの学会

も30%未満であり、プレコンセプションケアに関する医師の意識が低いことが予想された。医療者のプレコンセプションに関する知識や情報提供が不十分である実態は、本研究で把握した状況よりも実際にはさらに深刻であると考えられる。

上記課題をふまえ、今年度はこれらを解決する一助として以下の点を補うための資材作成を行った。

1. 性や生殖・妊娠・避妊等に関することを含めたプレコンセプションケアの基本部分について、過不足なく説明できる
2. 医療者が対象者に説明すべき項目として確認やアップデートができる
3. 医療者がハードルを感じることなく、対象者に将来の妊娠・出産に対して話題提供ができる
4. それぞれの基礎疾患と妊娠・出産に関する知識を全国の医療者に対して均てん化を行える
5. 医療者より対象者に伝えるべき情報、対象者より医療者に伝えるべき情報を、両者の間で共有・見える化できる
6. 将来に関する正しい情報を提供するだけでなく、（特に産後の）忙しい女性が効果的に健康管理できる方法についても医療者と会話ができる

マニュアルおよびリーフレットの各疾患の部分に関しては、最初に以下のグループで作成し、後に形式や文言を統一し、すべての研究班メンバーにて確認した。疾患に関連した学会（日本糖尿病・妊娠学会、日本高血圧学会、日本甲状腺学会、日本リウマチ学会の妊娠に関する専門家を研究協力者としてお願いした。

最終的に、今後追加されるであろう疾患についても活用できるスタイルを開発した。

- 1) 糖尿病 分担研究者（長村）、研究協力者（柳澤、和栗）
- 2) 高血圧 分担研究者（三戸）、研究協力者（安田、阿部、目時）
- 3) バセドウ病 分担研究者（小林）、研究協力者（吉原、久門）
- 4) 関節リウマチ 分担研究者（三浦）、研究協力者（平松）

産婦人科統括として杉山、助産師・看護師・保健師統括として大田、薬局薬剤師統括として宮原、広報・コミュニケーション専門家として秋山、および研究代表者である荒田が事務局担当の安田とともに統括した。

C. 研究結果

今年度の研究では、①プレコンセプションケア医療者用マニュアル、②疾患別リーフレット「プレコンノート 疾患編」（4疾患）、③プレコンセプションケア啓発用チラシ「プレコンカード」（調剤薬局や外来での配布を前提）を作成した。（添付資料）

①プレコンセプションケア医療者用マニュアル 本マニュアルの位置付けは以下とした。

○ 活用想定：医療機関等におけるプレコンセプションケアに関する相談対応等を進める手引書

○ 活用対象者：医療機関におけるプレコンセプションケアに関する相談対応等において、産科・婦人科・小児科・内科等の外来の医師、助産師、看護師、保健師又は管理栄養士等が使用することを想定

○ 対象者（対象患者）：性別を問わず「思春期前後～性成熟期」の年代で、基礎疾患をもっているまたはその既往がある、月経など性や生殖に関する悩みを抱えている、以前の妊娠で問題があったまたは不安がある、現在の健康に不安がある人

プレコンセプションケアに精通していない医療者でも、①問診票、②プレコンセプションケアツール、③リーフレット「プレコンノート」等を用いて、決まった方式でチェックし、スクリーニング検査と、対象者に対して長期的な視点を持ってコーチングを進めることができるような内容とした。

令和5年度に行った基礎疾患を持つ女性を対象としたフォーカスグループインタビューの結果や、関連学会へのアンケート結果などを踏まえ、対象疾患を、糖尿病・高血圧・バセドウ病・関節リウマチの4つに絞ってマニュアル、同4疾患のリーフレットを作成し、それらを用いた相談外来の実施を想定した。今後、基礎疾患に対する記載を順次増やしていくことを想定として作成した。基礎疾患のないものに対しては、令和2～4年度こども家庭科学研究費（研究課題名 生涯を通じた健康の実現に向けた「人生最初の1000日」のための、妊娠前から出産後の女性に対する栄養・健康に関する知識の普及と行動変容のための研究（20DA1006）研究代表者 荒田尚子）で作成した患者用リーフレット「プレコンノート」を相談外来で用いることを想定した。

○ 「4. プレコンセプションケア—基礎・共通—」及び「5. プレコンセプションケア—疾患別—」各論において、各論」では、プレコンセプションケア外来を実施するにあたって、事前に理解しておくべき基本事項を概説した。まず、基礎疾患の有無にかかわらずすべての女性に共通する一般的なチェックポイントについて説明し、そのうえで、基礎疾患やリスクを有する女性に対しては、より具体的なチェック項目や必要となるスクリーニング検査を提示し、実際の診療に活用できるような構成とした。プレコンセプションケア外来の実施に当たり解しておくことが必須となる項目を概説した。「各論」において基礎疾患に関わらない誰もがが必要な一般的なチェックポイントを説明し、基礎疾患をもった方（女性）に対する具体的なチェック項目や必要なスクリーニング検査等を行えるような具体的な内容を示した。

○ 最後に、参考資料として、実際に外来の前に対象者が記載する問診票と疾患別問診票患者用チェックリスト を添付した。

尚、令和6年6月以降、「プレコンセプションケア

の提供のあり方に関する検討会 ～性と健康に関する正しい知識の普及に向けて～」内に設置された「医療機関等におけるプレコンセプションケア相談対応マニュアル作成ワーキンググループ※」と共同して、本マニュアルを作成した。また、同検討会からも意見をいただいて完成させた。※ グループメンバーは、本研究代表者 荒田尚子、本研究分担研究者 杉山隆、前田恵理（北海道大学だ医学イン医学研究員公衆衛生学教室准教授）、相良洋子（公益財団法人 日本産婦人科医会常務理事）（敬称略）の4名である。

目次

1. はじめに
2. プレコンセプションケアとは
3. プレコンセプションケア医療者用マニュアルの使い方
4. プレコンセプションケア—基礎・共通—
 - 1) リプロダクティブヘルス
 - 2) 感染症・ワクチン
 - 3) ライフスタイル：タバコ、アルコール、栄養・食生活
 - 4) 体重・運動
 - 5) メンタルヘルス
 - 6) 婦人科のかかりつけ医
 - 7) 子宮頸がん・乳がん
5. プレコンセプションケア—疾患別—
 - 1) 糖尿病
 - 2) 高血圧
 - 3) バセドウ病
 - 4) 関節リウマチ
6. 参考資料
 - 1) 問診票
 - 2) 疾患別問診票
 - 3) プレコンケアプラン
 - 4) 疾患別プレコンケアプラン

②疾患別リーフレット「プレコンノート 疾患編」（4疾患）

糖尿病、高血圧、バセドウ病、リウマチの内科4疾患についてリーフレットを作成した。問診、リスクチェック、情報提供、方針決定が外来でスムーズに行うための情報資料を作成した。妊娠を今考えていなくても使用できる、かつ定期的に使用できる内容とした。

問診票（添付資料の疾患別リーフレットP2-3）を兼ねており、診察の前にあらかじめ記載し、リスクチェック、疾患と妊娠に関する基礎情報把握の確認に用いることができる。不足している情報について、患者に説明する際に用いる教育資料として疾患特異的な事項、疾患によらない共通するプレコンセプションケアの情報を網羅した。個人によって異なる妊娠出産を見据えた目標を定め、アクションプラン（本リーフレット裏表紙：プレコンケアプラン）を医師（医療者）とともに作成する。

③プレコンセプションケア啓発用チラシ「プレコンカード」

調剤薬局や外来等で生殖可能年齢の女性に配布することを想定した、おまもり型のカードを作成

した。プレコンセプションケア、および疾患毎のプレコンセプションケアの情報にアクセス可能なQRコードを付した。

D. 考察

本研究では、疾患を持った女性（当事者）が医療機関で将来の妊娠・出産やライフプランを考慮した診療を受けるにあたり、初年度の調査の結果により得られた当事者や臨床現場のニーズに沿った資料の作成を目指した。限られた時間のなかで、医療者・当事者ともに過不足なく知識がいきわたるだけではなく、実際に行動変容に結び付くことを目的とした内容となったため、その効果を期待する。一方で、これらを実際に使用しての外来運用や知識の習得、行動変容については医療者・当事者からのフィードバックが求められる。

今回の資料作成では以下の点が達成できたと考える。

- ① 診療科を問わず医療機関で配布できる女性の性と生殖に関する基本的な情報やプレコンセプションケアに関する情報提供
- ② 医療者に対するプレコンセプションケア教育
- ③ 医療者が知るべき、思春期/若年成人の疾患をもった女性の将来の妊娠・出産に関する知識のまとめ
- ④ 短い診療時間の中で医療者・当事者ともに過不足なく必要な知識を得て活用するためのチェックリスト
- ⑤ 実践的なプレコンセプションケアの普及のための外来実施例の提案

医療者からのニーズのあった、正確な知識を医療者が学ぶためのツールやワークショップなどについては、今後展開していく必要がある。

各専門学会と成育医療センター内の「プレコンセプションケアセンター」等が協力し、プレコンセプションケアを行うにあたっての一般的知識および各疾患の知識双方の習得および、当事者の行動変容を起こすための手法を学ぶための、疾患専門医やメディカルスタッフ、保健師、薬局薬剤師などが研修可能なプログラムおよびシステムの構築が必要である。さらに、これらの資料が実際に活用でき、当事者に十分なケアが行き届くための医療システムも必要と考えられた。課題を整理し、解決していくことが望まれる。

E. 結論

基礎疾患を持つ方に対するプレコンセプションケアの情報提供を充実させるために、①プレコンセプションケア医療者用マニュアル、②疾患別リーフレット「プレコンノート 疾患編」（4疾患）、③プレコンセプションケア啓発用チラシ「プレコンカード」を作成した。医療者からのニーズのあった、正確な知識を医療者が学ぶためのツールやワークショップ、システム構築などについては、今後展開していく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 荒田 尚子. プレコンセプションケアとは. 日本臨床栄養学会雑誌 2024; 46(1): 8-15.
- 2) 真木 晋, 三戸麻子, 千草義継. 【妊娠高血圧症候群2024】臨床編 母児の予後 妊娠高血圧ヘルステアプロバイダー制度. 周産期医学 2024; 54(10): 1431-4.
- 3) 長村 杏奈. 糖尿病の妊娠前管理. 糖尿病 2024; 67(3): 147-9.

2. 学会発表

- 1) 荒田 尚子. 日本糖尿病・妊娠学会の成果の社会実装 糖尿病領域のプレコンセプションケアを推進するために. 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会、さいたま市、2024年10月22日、23日
- 2) 荒田 尚子. 女性甲状腺ワークショップ プレコンセプション 前思春期から性成熟期. 第97回日本内分泌学会学術集会、横浜市、2024年6月6-8日
- 3) 三戸 麻子. 妊娠高血圧症候群予防に向けた生活習慣指導の意義 プレコンセプションケア. 第46回日本高血圧学会総会、福岡市、2024年10月12-14日
- 4) 長村 杏奈, 安田 麻里絵, 柳澤 慶香, 和栗 雅子, 荒田 尚子. 糖尿病を持つ女性に対するプレコンセプションケアの情報提供の現状. 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会、さいたま市、2024年10月22日、23日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし